

# 宇佐崎報

発行 宇佐崎自治会

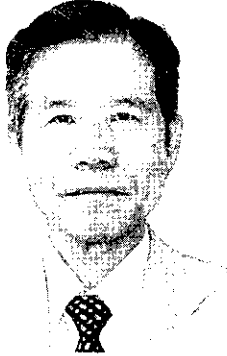
〒672-8023 姫路市白浜町宇佐崎

Tel (079) 245-9721

編集・文責 宇佐崎自治会 広報・文教委員会

## ごあいさつ

宇佐崎自治会 会長 濱田 長伸



大変暑い季節となりましたが宇佐崎の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。本年は3月11日に東日本大震災が発生し、2万数千人という多数の方が死亡、行方不明になり史上最大の被害をもたらしました。被害者の皆様のご冥福を祈り、被災地のみなさんが1日でも早く立ち直られるようご祈念申し上げたいと思います。

その節は自治会の皆様には義援金の募集にご協力いただきましてありがとうございました。お寄せいただいた義援金(762951円)は白浜支所を通じて、姫路市に届けられ、姫路市から兵庫県へ送られ、兵庫県としてまとめて日本赤十字社へ送られました。

地震、津波だけでなく福島第一原子力発電所の水素爆発、炉心溶融という大惨事も重なりました。周辺地域のみなさんは放射能による汚染、立ち入り禁止区域の設定により農業、漁業ができなくなり、工場も操業できなくなり、生活の基盤のすべて奪われ自殺者が出たり、絶望的な中で、集団避難をしてなりゆきを見守っているという状況です。我々被害にあわなかった者は東北の人の分も頑張って日本沈没とにならないように努力をしていく必要があるのではないかと思います。

本年3月には飾磨消防署白浜分署が新しい浜国道(国道250号線)南側に完成移転しました。以前と比べると約2倍の広さを持ち、飾磨本署とのアクセス、救急、消防活動にも機動力を発揮できる場所で、大変すばらしい設備を完備した分署ができた大変喜んでおります。

山陽電鉄、白浜の宮駅のエレベーターもプラットフォーム用2基、北側に券売機、改札口までのもの1基、合計3基が設置され3月末から供用されました。高齢者の方々や体の不自由な方々からの強い要望もあり、自治会としても長年にわたって陳情活動してきたものが実を結んだものと大変喜んでおります。これにより白浜の宮駅が大変使いやすくなりますのでご利用していただきますようよろしくお願いいたします。

6月12日には恒例の蛭子神社水無月祭を実施いたしました。年度後半の宇佐崎の皆様のご健勝とご多幸および後半に実施される諸行事の成功、特に秋祭りの無事平安を祈願いたしました。毎年お願いすることですが祭りは危険と隣り合わせなようなところがあります。楽しく、盛大に盛り上げて怪我人が一人も出ないという目標に向かって役員、取締、各部署役員、参加者がそれぞれの持ち場で絶対にケガはしない、ケガはさせないという気持ちで当たれば大抵のことは防げるのではないかと思います。町内の皆様方におかれましても祭りを盛り上げていただき、若い衆に対し温かいご声援をお願いいたします。

年度後半も良い年になるよう役員一同、皆様とともに頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくご支援ご協力を賜りまようお願いいたします。

## 土木委員会の報告

宇佐崎自治会 土木会長 小西 弘一



土木委員会より報告致します。以前より要望していた白浜の宮駅エレベーター工事が昨年度より始まり、本年度の3月前半に完成しました。

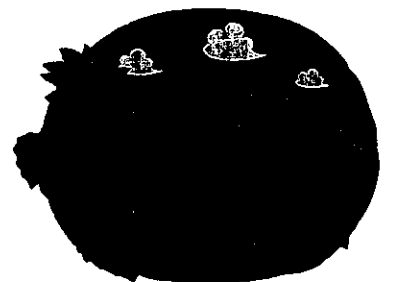
3月30日の始発電車より使用開始となり高年者、障害者等の方々安全安心して利用出来るようになりました。

その他、山陽電鉄白浜の宮駅周辺が姫路市バリアフリー基本構想の重点整備地区の指定を受け、数年の内に、構想計画に沿って推進されると思われます。

また、土木防災事業については、道路安全設備設置工事(カーブミラー・水銀灯)数カ所設置が済み、

その他、河川浚渫及び側溝清掃の要望書については提出済みで、今後、事業早期実行して頂けるよう再度、官公庁をお願いに行きます。

土木防災委員会全員で、安全安心の町づくりをめざして頑張りますので、今後とも町民の皆様方のご理解とご協力を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。



# 祭典委員会より 宇佐崎 祭典委員長 河野 富士雄

町民の皆様には、日頃から何かとお世話になりありがとうございます。さる、6月12日には蛭子神社において水無月祭を執り行いました。多くの方にご参拝いただきありがとうございました。

濱田総代にあわせ皆で宇佐崎の発展、住民の幸せ、町内企業の繁栄をお願いさせていただきました。これからは、松原八幡神社秋季例大祭が盛大に執行できるよう屋台の整備(金具の総メッキ、泥台・脇棒受けの取りかえ、太鼓胴内金箔修復)等、諸準備に役員・取締一同、全力で取り組んでまいりますので、部署役員の皆さん、住民の皆さんのご支援、ご協力の程よろしく願いいたします。



蛭子神社水無月祭

## 新屋台蔵の建設計画

祭典委員会から長年の懸案(念願)である屋台蔵の新築計画に関する検討の状況について報告させていただきます。現在、建設場所の絞り込み、他村の屋台蔵の見学(視察)等を実施しております。今後は、皆さまのご意見等も踏まえ、屋台蔵の構想の素案(構造、設備の内容、資金計画、建設時期、日程及び建設委員会〈仮称〉の設置等)をつくり、協議会で決定いただき、早期建設を目指し進めてまいりますので、皆様方のご指導、ご支援、ご協力のほどよろしく願いいたします。

## 福祉について考える

最勝寺住職 八木 巧

「福祉」それは人類にとって永遠の課題ではないでしょうか。

「福祉」という言葉から最初に連想するのは、「弱者救済」です。貧しい人を助ける。身体の不自由な人の手助けをする。高齢者をいたわる。幼児や学童の安全確保。行政的に言えば、生活保護、身体障害者支援、高齢者介護、児童福祉だと思えます。行政ですべき福祉と地域住民でできない福祉があります。宇佐崎では「ふれあい食事サービス」を毎月実施しております。これは、姫路市社会福祉協議会白浜支部として、宇佐崎、中村、灘の松原がそれぞれに実施しているものです。また、「ふれあいネットワーク活動」として、主に一人暮らし高齢者をみまもる活動も行っております。



ところで、私達の生活する瀬戸内地方は天災地変の大変少ない所で、ありがたい地域です。でも、いつ何時大地震が起こるやら知れません。台風や局地的な豪雨に見舞われ、山崩れに襲われる可能性がないとはいえません。津波、高潮、河川の洪水も心配です。

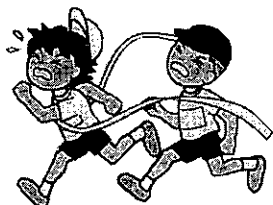
こんな時、身体が不自由な方、高齢者や年少者、妊娠中の方等の身の安全を確保するのはなかなか難しい問題です。各地区で自治会の役員さん方が、災害時に素早く行動ができないこれらの方々(以下「災害時要援護者」と言います。)の情報を把握しておく必要があります。いくら行政に災害時要援護者の情報があっても、いざと言うときには到底役に立ちません。また、その情報を各自治会に渡せば、「個人情報保護」の上からも問題になります。

各地域内に、災害時要援護者がどこにおられるのか、その人は今どのような状態なのか等々を常日頃から把握し、いざと言うときに救済することができるのは、地元の方々にはしかできないことではないでしょうか。

青山地区では、災害時に救助する方々の台帳を作成しました。個人情報保護のため、地区内の全世帯に申請書を配布し、年齢や障害にかかわらず台帳に載せてほしい人を募って作成したものです。集まった希望者の世帯を地図に落とし、既往症や緊急連絡先も記載し関係の各団体で共有しています。

当然のことながら、この情報は目的以外に使用しないことが大原則で、必ず守らなければなりません。また、情報の更新も大切ですが、更新する作業を通じてのコミュニケーションづくりにも役立つものと思われまます。

阪神淡路大震災の時、地域住民の頭の中の情報が、救援活動に大変役立つそうです。地域住民にしかできない「福祉」があることをご紹介させていただきました。



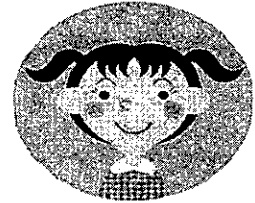
☆ 宇佐崎の子ども達、本当によく頑張りました ☆

白浜小学校運動会	支部対抗リレー女子の部	7支部：優勝	8支部：3位
	支部対抗リレー男子の部	7支部：2位	8支部：3位
子供会球技大会	バレーボール(女子)	8支部：優勝	6支部と7支部：3位
	ソフトボール(男子)	7支部と8支部：3位	

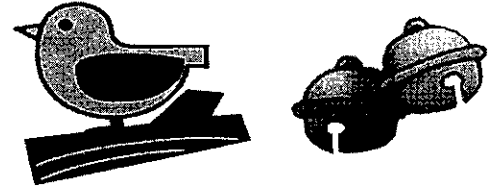
## こんな白浜っ子に

白浜小学校 校長 赤穂 淳一

金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」という詩があります。



「わたしと小鳥とすずと」 金子みすゞ  
 わたしが両手をひろげても、お空はちっともとべないが、  
 とべる小鳥はわたしのように、地面（じべた）をはやくは走れない。  
 わたしがからだをゆすっても、きれいな音はでないけど、  
 あの鳴るすずはわたしのように、たくさんうたは知らないよ。  
 すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい



『この世の中にあるものは、だれ一人、なに一つ同じものはなく、だからこそ、みんなすばらしい』とっているのです。「みんなちがって みんないい」この気持ちを誰もが本気で大切に出来たら、いじめも戦争もなくなるでしょう。まず皆さんに伝えたいのは、「自分を大切にすること」です。それは、「自分が好き」であり、「自分の良さに自信を持つ」ことです。また、周りの人に振り回されるのではなく、自分の頭でしっかり考え、良いこと悪いことをしっかり判断し、「イヤなことはイヤといえる、自分の意思がはっきり示せる」ことです。そして、何よりも「自分で自分の命を守る」ことです。これが「自分を大切にすること」です。

第二は「友だちを大切にすること」です。それは、他人の喜びや悲しみをわかろうとすることであり、他人の痛みを感じる心をもつことです。自分とのちがいを認め、その子らしさを大事にすることです。自分がされてイヤなことは他の人にも絶対にしないことです。

第三は「ふるさと白浜を愛し大切にすること」です。白浜は君たちのふるさとです。白浜小学校は君たちの母校です。互いにあいさつをしあって、いつまでも大切にしてほしいのです。

第四は「失敗を怖がらず、よいと思ったことには何事にもチャレンジしていく」ことです。失敗しないという人はいないでしょう。失敗してもいいじゃないですか。次にそれを生かせばいいのですから。失敗をこわがって何もしていないより、失敗しても精一杯やってみる方が、よほど「自分は生きているんだ」ということを感じる事ができるのではないのでしょうか。『自分の幸せを自分の手でつかむ努力を！』

### ルールを守ろう！自治会からのお願い

防犯美化委員長 河野 敏信  
 財務委員長 岡田 健三



平素は、自治会活動にご理解とご協力を頂きまして有難う御座います。

さて、ここ近年、宇佐崎在住の住民も数年前に比べて大幅に増加しており、大変喜ばしいことではありますが、その反面、路上駐車やゴミ袋のポイ捨てといった問題が出てきています。最近、路上に駐車している車が目立ち始めたため、住民の苦情も出ています。住宅が密集している生活道路であり迷惑駐車をしていると、子供や自転車やお年寄りなどが交通事故に巻き込まれる恐れがあり、事故が起こってからでは遅いのです。まず、路上に駐車している車に注意喚起をしなければ迷惑駐車は減りません。

自治会としては、迷惑駐車している車両に注意を促すためにも、①注意書きを記入した張り紙等をフロントガラス等に張り付ける。②所有者等と接触出来る場合は、一人だけではなく複数の委員で対応すること。③再三注意を促しても従わない場合は、警察に届ける等の対応を行ってください。まずは、住民の安全な生活を優先することから、積極的に対応したいと思います。

また、自治会では3か所の駐車場を運営しておりますのでご案内申し上げます。

1番目は、宇佐崎北2丁目の宇佐崎墓地の隣で約10台の駐車が可能です。2番目は、宇佐崎北1丁目の駐車場でこれも約10台の駐車が可能です。3番目は、宇佐崎中1丁目の駐車場で約15台の駐車が可能です。3か所とも月極め3,000円と格安で駐車ができますので路上駐車している方は近くの駐車場を利用してください。

次に、ゴミ袋のポイ捨てが後を絶ちません。ゴミ収集日や収集場所以外にゴミ袋が置かれていることがあります。この地域は灘祭りでは有名ですが、きれいな街としてはどうでしょうか？もっと一人一人がルールを守って頂きたいと思います。防犯では、特別防犯委員を増やし、30人体制で月に1回パトロールをしております。子ども達も夏休みに入り、気がゆるみがちになり「公園や海岸での花火」や「暴走行為」等が心配されます。躰は、各ご家庭でお願い致します。自治会では、安全で住みよい環境の地域を目指しております。「迷惑駐車」や「ゴミのポイ捨て」を減らすためにも自治会活動にご理解ご協力の程、宜しくお願い致します。



## 昔習った四字熟語でボケ防止を！ 親子3世代で遊べる四字熟語かるた大会の夢

七支部高年者竹クラブ 会長 尾上誠一



皆さまは四文字熟語に馴染みがおありのことと思いますが、単漢字を組合わせて「四文字熟語」を作り上げる「四文字熟語かるた」があるのをご存知でしょうか。若い頃からそんなものがあったとしても良いなど考えていたのですが、平成15年に製作を決断し世の中に初めて出しました。

実物を見れば何ということはないのですが、要は一箱に入っているカード200枚の裏表に赤と黒の文字が印刷されてあって、四字熟語に組み合わせていくと赤と黒各50組の熟語が出来上がります。このかるたの特色はアナログ方式で視覚に訴えながら、素早い選択と反射神経によって行動力を高めたり、対戦相手の手の内を読みながら「ひらめき」と「先を読む力」を磨く…左脳と右脳開発に役立つことで小中学生の漢字学習教育の維持と向上に、そして高年者にとっては大いにボケ防止に役立つことでしょう。

発売当時90歳を超えていたご婦人が毎日取り出しては裏表の100組の四字熟語を完成させるのに挑戦をされ、1時間を切るまでになったという実話がありました。そのお方は現在もご健在と伺っております。

遊び方は色々で、個人でもグループでも①場に拡げてあるカードを順番に拾い上げながら完成させる。②参加者各人に4枚ずつ札を配り、残りを場に拡げてトランプのように手札の中から1枚不要なものを場に捨てて、代わりに必要なものを拾いながら完成させていく。

③台紙上に4字熟語の一字ないし3字を欠いた熟語の問題を作って参加者に配り、順番に場から探して完成させ、数を競う。④赤文字と黒文字を必ず2枚ずつ使って完成させながら完成した数を競う。などいくらかでも工夫すれば楽しめるのではないのでしょうか。

また、この上記のやり方で、親子3世代を一グループとして遊ぶのも家庭ではできない遊び方になるのではないのでしょうか。尚各高年者クラブでこの「四字熟語かるた大会」を競い合い、ひいては姫路市の大会にまで発展させることが出来たら、まさに「新年の初夢」となることではないでしょうか。人生の百戦錬磨の先輩方の皆さん、世の中で「あったらいいな」「こんなことで困っている。何とかならないか」などと平素思いつく「難問」「知恵」「アイデア」を持ち寄りませんか。

姫路日曜発明学校(姫路発明研究会主催、毎月第3日曜日午後、姫路科学館4階)では、日常生活の中で「こんな良いもの考えた、作った」「何か良い知恵はないか」「興味があるので参加してみたい」という方がありましたら、尾上(電話079-245-0835)までご一報ください。良い結果が出るやも分かりませんよ。



## 地元の有名人

広報文教委員 花田 敏幸

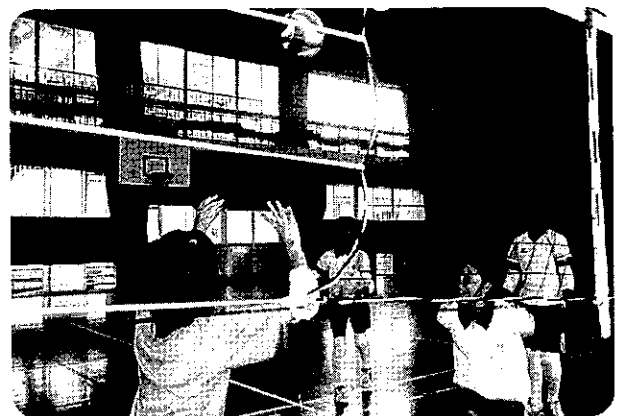
今回は、白浜ジュニアバレーボールクラブを指導されている8支部の三木孝一氏を紹介し、平成6年から同クラブの監督を務め、保育園から小学6年の子ども達を指導され、みんなに親しまれている理由は何かとたずねたところ、それは「徳育」だと答えられました。

部員が多くても家族みtainなもので、勝利至上主義ではなく「約束を守る」「あいさつをする」「感謝の心」を大切に、「全員バレー」だと言いつけられました。

部員の皆さんに監督についてインタビューしました。「怒るときはがっかり怒るけど、うまくなって欲しいから言ってくれていると思う」(中塚さん)、「厳しく怒ってくれる。でも、しんどい時は笑わせてくれる。」(藤中さん)、「怒る時もあるけど、優しくおもしろい。」(南部さん)

クラブのこれまでの戦績は県大会ベスト16、市民大会3位とか……。戦績よりバレーボールの本質をみんなで楽しんでいるかのような様子でした。

また、監督の夢は、メンバーの成長はもちろん、教え子が子供を連れて練習を見に来てくれることや、将来、教え子から後継者が出てほしいと言うことでした。現在、白浜小学校の子供だけでなく、妻鹿小学校、糸引小学校、飾磨小学校の子ども達が集まって、火曜日、木曜日、土曜日の週3回、午後5時～7時まで白浜小学校の体育館で、汗を流しています。「宇佐崎の皆さん、応援を宜しくお願いします!!」



バレーボール最高!! 楽しいよ